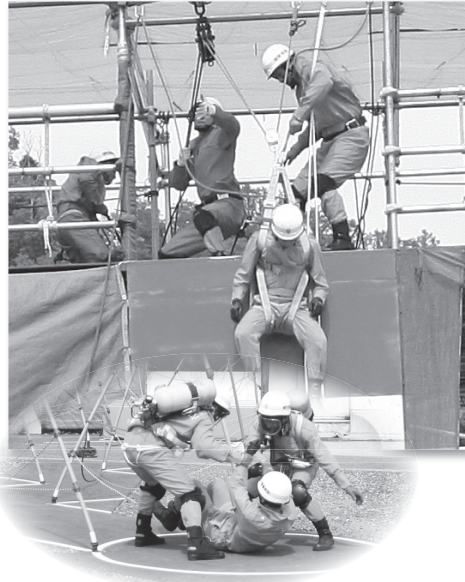


全国が注目、わが町の消防士の高い技術力！

全国消防救助技術大会で健闘



(写真：同署での引揚救助訓練の様子)

全道消防救助技術訓練指導会の引揚救助部門で5年ぶりに優勝した北後志消防組合積丹支署のチームは、8月7日、東京都で開催された第41回全国消防救助技術大会に出場し、小さな町の消防士の高い技術力を全国に見せてくれました。

大会には、陸上の部7種の訓練種目の中から引揚救助に出場。この種目は、要救助者役を含む5人一組で行われ、7m塔上のスタート地点から2人が空気呼吸器を装着して塔下、要救助者

を2人で救出し、他の2人と協力して塔上へ引き揚げ、救助と脱出するまでの安全・確実性と所要時間を評価する種目で、技術や判断力はもちろん、隊員同志のチームワークが必要とされます。同署では、積丹町の険しい海岸形状での救助活動に即した訓練種目であることから、日頃からこの訓練に力を入れて取り組んでいます。

今回、大会に出場したのは、隊長の笠嶋雄一さん、入間川大幸さん、嶋田伊佐央さん、石川悟史さん、北上信人さんの5人から、全国9地区791消防本部チームで技術を競いました。大会では、競技の標準タイム

2分30秒を大幅に上回る1分23秒の好タイムを記録、全国23の都市消防の強豪チームがひしめく中、10番目の記録となる健闘をしました。

隊長の笠嶋さんは、「入賞を果たせず非常に残念ですが、これからも消防士としての高い技術の向上を目指し訓練を重ねていきたい。」と話していました。入賞は逃したものの、署員17人の小さな消防署が、東京消防庁などの大都市の消防士と技術力を競う全国大会へ出場したことは私たちの郷土の誇りでもあります。

9月9日 救急の日

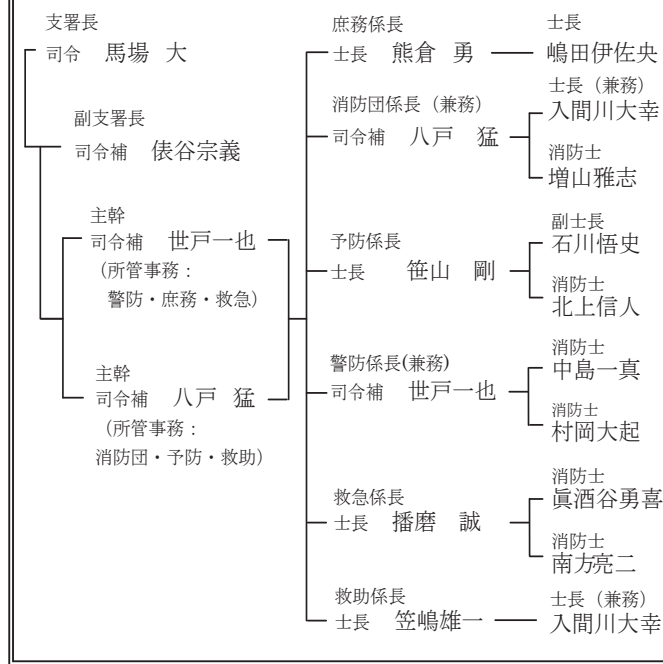
救急車を呼ぶときは落ち着いて正しい情報を伝えましょう！

119番通報5つのポイント

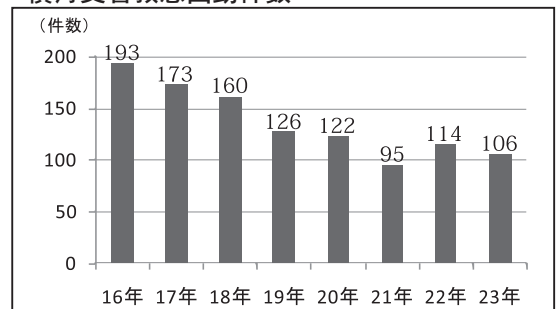
- ① 来てほしい場所の住所と目印の建物。
- ② 事故や病気の種類。
- ③ けが人や急病人の数、年齢、性別。
- ④ けが人や急病人の容態。
- ⑤ 持病があればその病名、かかりつけの病院。

北後志消防組合積丹支署機構図

(平成24年8月1日現在)



積丹支署救急出動件数



※数値は各年1月～12月

積丹支署の救急出動の件数は、年々減少傾向にあることが右表からわかります。これは、人口や夏季間の海水浴客等の減少のほか、町民の保健予防や早期治療など健康意識の高まり、町立診療所からの搬送が少なくなったことも出動減少の要因と考えられます。

これからも救急車の正しい利用にご協力をお願いします。

同署救急係

みんなで受講しよう！

救命講習会

積丹支署では、心肺蘇生法やAEDの取扱い方法などの救命講習会を開催しています。お気軽にお問い合わせください。

同署救急係 44-2352

(注)北後志管内での携帯電話からの119番通報は、北後志消防本部(余市)を経由し各町村の消防支署へ転送されます。通報の際には、必ず町村名を教えてください。また、IP電話から119番通報はできませんのでご注意ください。